

< 県研究主題 >

望ましい集団活動を通して、児童一人一人の自主的、
実践的な態度の育成と豊かな人間関係をはぐくむ指導の充実と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 横山 里恵 (川崎地区)

< 研究主題 >

よりよい学校生活の実現をめざして、自分の希望や願いをもち、
目標をもって生活する子どもを育む特別活動

1 提案内容

(1) テーマ設定の理由

具体的な活動や日常の生活場面の中で、他者の気持ちに寄り添い、共に考え、学び、悩み、乗り越え、歩んでいこうとする姿勢を育むことで、子どもはよりよい学校生活の実現をめざし、希望や願いをもって自分たちの生活を自分たちの手で作っていくことができると考え、本テーマを設定した。

(2) テーマ実現のための重点

① 一人ひとりが「なりたい自分」をもち、よりよい学級生活の実現をめざして努力し合う集団をつくる

個が育ってこそよりよい集団にもなるし、よりよい集団であるからこそ個も育つ。どんな社会においても、一人ひとりが「なりたい自分」をもち、よりよい集団をつくる一員として努力することが大切。

② 自己や他者(個)のよさを見つけ、個や集団に愛着をもつ

自分が好き、友達が好き、クラスが好き、学校が好き、みんな大切という気持ちを高める。

③ 学校生活を楽しくよりよいものにしようとする願いや思い、考えを共有する

もっとよくなるように、工夫したい、やってみたい、見て、聞いて、一緒にやろうにつなぐ。

④ 互いの思いや考えを受け止め合う話し合い活動を積み重ねる

学級活動での話し合いのほか、日直活動で司会進行の経験を積む。

⑤ 気づき→話し合い→実践→振り返り(評価・改善)を通して、自治的な活動を促す

係活動、学級会と集会活動、日々の振り返り活動、学級活動(2)とを関連させて実践。

(3) 学級づくりについて ～学級活動を支える体験活動と環境づくり～

○学級目標を意識した学校生活をめざして

- ・学級目標を決める際に、互いの思いを聞き合う場を設けた。互いの思いを聞き合ったことで、子どもたちのめざす姿がより明確になり全員で共有することができた。よりよいクラスを自分たちで作っていかうという意識も高まった。
- ・学級目標を大切にしていこうとすることで、子どもたちは学級目標の実現を意識して日々のめあてをたてたり、係活動を工夫したりするようになった。話し合いの拠り所にもなっている。

○係活動でよりよい学級生活づくり

- ・ホワイトボードを使い、連絡・相談事項などをみんなで共有するようにしている。

○朝の会はミニ学級会

- ・連絡や相談、司会進行の在り方を身に付ける場として活用している。

○帰りの会は明日へのエネルギーをつくり出す時間

- ・一日を振り返り、自分と友達のがんばりやよさ、課題を一言日記として記述することで、内省する心や向上心を高め、自己決定の力を育んだり、自己有用感を味わったりすることができるようにしている。

○ビー玉貯金でがんばりや喜びを可視化

- ・個や全体ががんばれた時や学級目標に近づけたときなどに、瓶の中にビー玉を入れるようにしている。学級の高まりを可視化したことで、学級への所属感や友達との連帯感がさらに高まった。子どもたちはこの取組をととても楽しみにしている。

(4) 学級活動(1)の実践

○学級会オリエンテーションを行う

- ・全員で学級会の役割や意義、会の進め方や約束事を共通理解するために、年度当初にオリエンテーションを行った。

○学級会アイデアカードの活用

- ・学級会アイデアカードに、学級目標に基づいた話合いのめあてを事前に記入するようにした。学級会では、話合いのめあてをもとに意見を述べる姿が見られた。有効性を感じた。

○自分たちの成長や楽しかった思い出を可視化し、次の活動へつないでいく

- ・楽しかった場面やがんばっている姿の写真を、活動後に係の子が感想カードとともに模造紙に貼り、思い出アルバムとして掲示した。
- ・トロフィーや花束を作り、クラスやがんばった自分たちに贈り「思い出コーナー」に展示しておくようにしている。

2 協議内容

(1) 時間数について

- ・朝の会や朝学習の時間(1モジュール)、休み時間なども活用しながら学級づくりや学級活動に取り組むこともある。
- ・35時間という限られた時間なので、見通しをもち、意図的、計画的に使っていきたい。

(2) 学級会オリエンテーションについて

- ・とても大切だと感じた。話合いの意義や価値を子どもとともに考え、共有できたのは素晴らしいと感じた。
- ・年度当初に進め方や約束、役割などについて共通理解することの大切さを感じた。

(3) 学年や学校全体における足並みなどについて

- ・学年のテーマをもとに、学級活動や学級会の進め方や約束事などについて、担任間で共通理解を図るようにしている。
- ・準備や打ち合わせなどの活動をする場を同じにしたり、掲示物等を利用したりして、互いの学級の活動の様子が見えるようにし、共有している。
- ・教育課程に基づいて系統的に6年間で子どもを育てていくことは大切であると感じている。
- ・日々の生活や活動を大切にして、見通しをもって意図的に支援を行っていくことは大切。

3 まとめ

- ・学級目標は学級経営や学級活動の基盤となるものであるので、大切にしていきたい。
- ・活動の場や時間をきちんと確保することは大切である。
- ・朝の会や帰りの会を大切にしていきたい。会の中の○○コーナーなどを通して、日々子どもの自尊感情を高めていきたい。
- ・学級会オリエンテーションは大切である。子どもが学級会の役割や意義、会の進め方や約束事を年度当初に共通理解しておくことは大切である。
- ・ふり返りを生かして、次の活動への意欲を高めていきたい。
- ・「為すことによって学ぶ」という意識を教師が持っていることが大切である。失敗も含め、子どもにとっては、活動の始めから終わりまでが学びの場である。体験を通して子ども自身が自ら気付いたり、考えたりすることの積み重ねが力になっていく。

< 研究主題 >
 豊かな人間関係を育む、望ましい集団活動
 — 学級会の話し合い活動を通して —

1 提案内容

(1) 厚木愛甲地区研究部会特別活動部会の研究

厚木愛甲地区研究部会特別活動部会において、学級会の指導について研究するにあたり、指導上特に重要であるとされる、「①事前・事後指導」「②司会用ワークシート」「③児童用ワークシート」「④板書・掲示物」の4つの柱でグループ編成し、グループ研究を重ねてきた。それぞれのグループ研究を学校の実態に合わせて取り入れ、学級会の授業実践を行った。

- ① 事前・事後指導に関して、活動の流れや振り返りの観点などが分かるワークシート作成に向けた研究。
- ② どの児童が司会をしても話し合いを進めることができ、簡潔な流れとなるような進行のワークシート作成に向けた研究。
- ③ 学級会を学年の実態に合わせて、スムーズに進行できる効果的なワークシート作成と、その活用についての研究。
- ④ 話し合い活動の目標や流れ、決まったこと等を全員が一目で分かるような黒板記録の仕方の研究。

(2) 学級会の実践

議題「高学年集会で6年生に感謝の気持ちを伝えよう」

- ① 本時のねらい
 - ア 6年生に「ありがとう」の気持ちを伝えるという目的をもち、みんなで話し合ってやることの内容を決めるとともに、進んで実践しようとする意欲を高める。5年生としてできることを考え、学年としての仲間意識を深める。
 - イ 周囲の人の話をよく聞いて、めあてや提案理由に立ち返って、発言や質問をする。
- ② 評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

③ 本時の成果と課題

- ア 1年間の高学年集会の活動や運動会で6年生と交流していた分、自然と6年生への感謝の気持ちや6年生のために何かしようという思いをもつことができた。

児童一人ひとりが意欲的に学級会に参加していた。

イ 質問や賛成意見など、友だちの意見を聞いてよく考えて発言することができた。
ウ 意見がたくさん出てまとまらなくなった時に、めあてに立ち返って考えるなどの対応力に課題が残った。

2 協議内容

(1) 多様な集団で集会をする場合の学級会について

○今回の実践では、5年生の他のクラスでも学級会を行い、その内容を各クラス2名の運営委員が持ち寄って、集会の流れを決めている。しかし、他クラスと合同での集会では、クラスで決めたことが決定にはならないため、児童の達成感や話合う意欲がなくなってしまうのではないかとの意見があった。

(2) 提案①事前・事後指導の時数の確保について

○学級会における事前・事後指導は大切であるが、その時数の確保が課題である。本実践では、国語科と関連させて事前・事後指導を行ったり、計画委員や運営委員の計画や準備は休み時間に行ったりして、時数の確保をしていた。

(3) 提案④板書について

○本実践ではネームマグネットを使い、賛成意見は黄色いマグネット、心配（反対）意見は白いマグネットを貼ることにして、話合いの過程がわかるよう工夫をしていたが、理由の板書はなかった。話合いの場の意志決定において、理由で判断することも多い。理由の板書の工夫は今後の課題である。

(4) 年間計画について

○学級活動は教科書がないため個々の教員によって差が生じやすい。本実践を行っている厚木愛甲地区では地区での研究を部会に所属している教員は共通理解しており、細かい年間計画が作成されている。

3 まとめ

(1) 多様な集団で集会をする場合の学級会について

○学習指導要領の学級活動(1)ウ「学校における多様な集団の生活の向上」には『児童は、各学級の一員であると同時に、学校の一員でもある。』と記されている。学級会で話し合ったことが実現しなかったとしても、学級で自分の意見を発言できているという点では、めあてを達成できている。そこで「自分たちはどのようにかかわっていくことができるか」という議題であれば、学年など他クラスと合同で集会をする場合でも個々が役割を持って活動することができるだろう。学校における多様な集団生活の向上につなげるためにも、議題の選定に気をつけていきたい。

(2) 年間計画について

○学級、学校を社会として捉えて、心地が良くない児童のために学級活動で火を灯したい。教科書がないからこそ幅を広げられるが、学校で全体計画、年間計画を作成することで、どういう子どもたちを育てたいかを教員が共通理解するとともに、教員間の連携を強めていくことが必要だと感じた。